第５回越谷サンシティ整備懇談会議事録

■日時
令和３年１月２５日（月）１４：００～１５：３０

■場所
オンライン開催

■出席者
・松岡拓公雄氏（亜細亜大学都市創造学部教授）
・田中秀明氏（明治大学大学院グローバル・ガバナンス研究科教授）
・丁野朗氏（東洋大学大学院国際観光学部客員教授）
・黒川文子氏（獨協大学経済学部経営学科教授）
・大櫛寛之氏（国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課課長）
・田中佐紀子氏（埼玉県都市整備部都市計画課主査）
・井橋吉一氏（越谷商工会議所会頭）
・畔上順平氏（越谷商工会議所青年部会長）
・近藤昭彦氏（越谷青年会議所理事長）
・桃木利幸氏（越谷市商店会連合会会長）
・関森初義氏（越谷市商店会連合会副会長）
・中村将義氏（越谷市観光協会事務局長）
・石﨑一宏氏（越谷市自治会連合会会長）
・堀井捷一郎氏（越谷市自治会連合会副会長）
・中村譲二氏（越谷市文化連盟会長）
・斎藤昭博氏（越谷市ＰＴＡ連合会会長）
・菊池博之氏（一般公募）
・松村亜依子氏（一般公募）
・森優斗氏（一般公募）
・中村直弘氏（一般公募）
・中島和美氏（一般公募）
・小菅里美氏（一般公募）
・朝比奈一郎氏（ファシリテーター）

■資料
・懇談会次第
・懇談会委員出席者名簿
・市出席者名簿
・資料１「越谷サンシティ整備懇談会報告書（案）」
・資料２「越谷サンシティ整備懇談会報告書（骨子案）に対する委員意見一覧」
・参考資料「越谷サンシティ整備懇談会報告書（案）に対する委員意見一覧」
・第４回越谷サンシティ整備懇談会議事録

１　開会

司会：

皆さま、こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

私は、本日、懇談会の司会を務めさせていただきます、市長公室政策課の平井でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、第５回「越谷サンシティ整備懇談会」を開催いたします。

本日の懇談会は、新型コロナウイルス感染症の拡大と、それを踏まえた緊急事態宣言を受けて、オンライン開催としております。これだけ多くの人数でのオンライン開催に不慣れな部分や通信環境によっては円滑な進行に影響が生じてしまうことが予想されますが、あらかじめご了承いただければ幸いに存じます。委員の皆さまの操作方法につきましては、事前に送付いたしましたマニュアルをご確認いただき、ご不明な点がありましたら、チャット機能、又はマニュアル記載の事務局携帯電話へご連絡をお願いします。また、ご発言するとき以外は、ミュート状態にしていただきますようお願いいたします。

次に、本日のご欠席委員につきましては、岸井委員、熊谷委員でございます。

市の出席職員につきましては、時間の都合上、名簿の配付に代えさせていただきますので、ご参照くださいますようお願いいたします。

２　あいさつ

司会：

それでは、開会にあたりまして、松岡座長からご挨拶をいただきたいと存じます。

座長：

本日は、報告書の案を提示しますので、忌憚のないご意見を賜れたらと思います。また、今回はリアルとオンラインのハイブリッド形式での懇談会実施となり、大変なところもあると思われますがよろしくお願いいたします。

司会：

ありがとうございました。

次に、お手元にお送りした資料の確認をさせていただきます。

−資料確認−

それでは、ここからの進行につきましては、松岡座長にお願いしたいと存じます。

座長：

それでは、しばらくの間進行を務めさせていただきます。

本日の会議はオンライン上で公開として進めてまいりますが、傍聴を希望されている方はいらっしゃいますか。

−事務局から傍聴希望者の有無について報告−

座長：
　希望者の傍聴を許可します。

−事務局　オンライン傍聴状況を座長に報告−

座長：
　傍聴人の皆さまは、事前に事務局から示してある「傍聴要領」を遵守いただくようお願いします。

座長：
　はじめに、本日の議事について確認させていただきます。お手元の次第に沿いまして、まず、意見交換の冒頭で、事務局から越谷サンシティ整備懇談会報告書（案）についての説明を行い、その後、委員の皆さまで意見交換を行い、進行状況にもよりますが、概ね１６時までには終了したいと思いますので皆さまのご協力をお願いいたします。

３　意見交換

座長：
　それでは、次第の「３　意見交換」に入りたいと思います。まず、「資料１　越谷サンシティ整備懇談会報告書（案）」について事務局から説明をお願いします。

−越谷サンシティ整備懇談会報告書（案）について事務局から説明−

座長：
　これまでの議論をしっかりとまとめられたと思います。
　引き続き、委員の皆さんとの意見交換に入っていきたいと思います。ここでの進行は、ファシリテーターの朝比奈さんにお願いします。

ファシリテーター：
　それでは、意見交換に入りたいと思います。懇談会もいよいよ最終回となりました。
　私自身は、年末に富山県を訪問し、広場ニストの山下氏などにお会いしてきました。その中で空間・広場を市民が参画しながら作っていくことの重要性を感じたところです。
　また、松岡委員や熊谷委員が懇意にしている隈研吾氏は、最近「作らない都市」ということを言われていますが、まさに日本における「余白」「空間」が文化的に大事で、欧州とは異なるところだと感じており、そのようなものを皆さんの力でどう作っていくかが大切だと思っております。
　本日は、懇談会の最終回ということで、前回懇談会で提示した「報告書（骨子案）」に、いただいた意見を反映した「報告書（案）」が資料として提示されております。この「報告書（案）」に対し、３名の委員からご意見をいただいており、また、資料への反映は間に合いませんでしたが、昨日、Ａ委員からもご意見をいただいております。まずはご意見を出していただいた委員からご説明をお願いしたいと思います。それでは、Ｂ委員お願いいたします。

Ｂ委員：
　施設機能の具体案はこれまでも各委員からでてきていますが、それに加え「防災」に関する観点を追記すると良いのではないかと考えています。
　参考にしていただければと思います。

ファシリテーター：
　ありがとうございます。
　次にＣ委員お願いします。

Ｃ委員：
　懇談会を通じて申し上げているとおり、市民との対話について、来年度以降、具体的にどのような形で実施するのかを明らかにしたいとの趣旨で意見を提出しました。

ファシリテーター：
　「報告書（案）」には、懇談会の総意だと思いますので「市民との対話窓口を開きながら、より良い施設の整備・にぎわいづくりに向けた検討を期待。」と記載しております。また、具体的な時期等については、懇談会として「こうすべき」ということまでは言い切れないと思いますが、ご意見を踏まえた対応を進めたいと思います。ありがとうございます。
　続きまして、Ａ委員お願いします。

Ａ委員：
　全体の枠組みとしてはこれでよいかと思います。私が申し上げた様々な意見も、９９ページの「投資に見合う集客力/経済効果を追求していく」、１０１ページの「越谷の歴史や文化を踏まえたシンボリックな拠点としていく」に反映されていると感じています。しかし、少し抽象的でもありますのでもう一段具体性を持たせていただければと思います。
　一点は、越谷の産業振興ビジョンに関連し、都市形成のグラウンドとしての産業・文化の総合拠点です。越谷市は農業が衰退し、工業も伸び悩んでおり、さらに高齢化に伴う後継者問題も起きています。このような中で新しい産業・文化の創造機能が必要であると考えています。先週、鯖江市に行ってきましたが、ここでは新しい産業創造の拠点を作っており、いわゆるオープンファクトリーの取り組みを実施しているのですが、そのような産業を生み出す機能、人が集まる機能を組み込んでいただきたいと思っており、９９ページの「投資に見合う」という部分に反映していただければと思います。
　もう一点は、こういった産業創造を進めるため、産業士やものづくり人などの人材を育てていく機能・仕組みも必要だと考えています。例えば、金沢の市民芸術村では、多様な芸術を生み出していくことと同時に、職人大学というものをつくっており、金沢の伝統工芸を継承するための人材育成を行っています。このように、文化は今あるものだけではなく、これから造り出していくことも重要ですので、そのような観点も具体的に含めていただけますと幸いです。

ファシリテーター：
　ありがとうございます。
　産業・文化の創造機能、その担い手のご意見をいただきました。

Ｄ委員は、音声がうまく繋がらないということで、文章で意見をいただいておりますので読み上げます。「民間の創意工夫が重要になると考えていることから、契約に関しても、民間の創意工夫が生かされる形となるように検討いただきたい」というご意見をいただいております。

事前にご意見を出していただいた方々からは説明していただきましたが、その他何かございますでしょうか。

Ｅ委員お願いします。

Ｅ委員：

最初の懇談会でも申し上げましたが「センシュアス・シティ」の具体的な定義がまだ定まっていないと感じています。前回のにぎわい創出懇談会ではそのような方針であったかもしれませんが、本懇談会としてこの言葉を使うにあたっては、もう少し具体的にイメージできる様にする必要があるのではないでしょうか。キーワードと言っておきながら、中身がまだ明確化されていません。「センシュアス・シティ」の表現としては９５ページにあり、その効果については述べられていますが、それだけだと誤解を生んでしまうのではないかと思っています。また、「センシュアス・シティ」という言葉についても定着している言葉ではないにも関わらず、あたかも知っていて当たり前な言葉であるかのように使われていることも気になります。

また、今後の進め方について、既定路線のように記載されており、今後変更できない圧力を感じていますがその点はどうでしょうか。

ファシリテーター：

「センシュアス・シティ」という言葉については、前回のにぎわい創出懇談会の報告書や市の事業構想で使われている言葉を引用しています。その際の文面を参照しつつ説明の記載を厚くすることは可能かと思います。

Ｅ委員：

「センシュアス・シティ」という言葉に具体性がなく、イメージになっています。レイクタウンの場合は、目の前に池があり、この調節池を中心としたまちづくりが基本にあるというのはわかります。

ファシリテーター：

ここでの「センシュアス・シティ」は、委員の皆さまからも出た意見として、人工的なレイクタウンとの対比の中で、人肌・ぬくもりを感じられる都市のイメージとして使っていると理解しており、今後、基本計画等を作っていくためのイメージとして盛り込んでいます。

Ｅ委員としては、「センシュアス・シティ」という言葉、イメージそのものについて違和感を感じていらっしゃるのでしょうか。例えば、レイクタウンに近い人工的なまちづくりが良いという意見でしょうか。

Ｅ委員：

なんでもかんでも横文字にせず、もっと理解しやすい言葉がないのかと思っています。市では官能都市との文言が削除され「センシュアス・シティ」としか表現しない雰囲気になっ

ていますが、一般市民も「センシュアス・シティ」だけでは、その意味を理解しきれていない印象で、定着していない表現ではないかと思います。

ファシリテーター：
「センシュアス・シティ」という概念自体が日本では新しいコンセプトだと言えるので浸透していないのはその通りだと思います。また、昨年度の議論の中で「官能」というのが誤解を与える表現のため削除した経緯があります。
ここで強調しておきたいのは、今回の報告書は、あくまでも懇談会として、市に対して提示するという位置付けですので、まだ市民に定着していない言葉であっても、市がリードして実践していくべきとすることは支障ありません。
次に、今後のスケジュールが既定路線にみえるという点についても、今回の報告書を市に提出し、その後進めていくものであり、何かが規定されているわけではなく、変更もありえると思います。

Ｅ委員：
整備スケジュールについては、行政の判断なので我々が示すものではないと感じましたがその点はどうでしょうか？

ファシリテーター：
表現にまぎらわしいところがあるのでそちらは修正を検討します。
Ｆ委員お願いします。

Ｆ委員：
今後の市民参加と検討のスケジュールが見えてきません。ただ意見を言って、ここで終わりということでは、虚しさを感じます。

ファシリテーター：
まず一般論でお答えすると、他市では、このような懇談会も開かずにパブリックコメントで終わらせているケースも多いです。その中で、越谷市は丁寧に市民を交えて進めるという方針で、今回の懇談会でも公募委員も交えて意見を聴取しています。
今後の進め方が決まっているわけではないものの、継続的に市民との対話を通して進めていけるようにしたい、という意見は報告書に記載されています。
この点について、事務局よりご説明いただけますか。

事務局：
今後、懇談会からの報告書、市民ヒアリング、マーケットサウンディングを踏まえて、越谷サンシティの整備基本計画を策定したいと考えています。
そのうえで、民間活力の活用のため、実施方針（案）や要求水準書（案）などを作成していくこととなりますが、その案を作成する又は作成した段階で市民の方々の意見をお伺いする場面があると考えています。現状で詳細は決まっておりませんが、機会を捉えて市民の方々の意見をお伺いしたいと考えています。

ファシリテーター：
　Ｇ委員お願いします。

Ｇ委員：
　本庁舎の建設も、様々な意見を伺ったうえで現在に至っていると思いますが、新たな越谷サンシティの整備についても同様の進め方をお考えでしょうか。

事務局：
　現在建設中の本庁舎についても、市民の意見を踏まえ、ワークショップなどを実施してきました。本件でも、基本的には、本庁舎の場合と同様に、市民の方々の意見を踏まえたいとは考えております。
　ただし、本庁舎の場合と異なる点は、本庁舎の場合、「本庁舎を建設する」という大きな目的がありました。一方、本件の場合は、南越谷駅・新越谷駅周辺地域をどうやって発展させていくのかという前段階から考えていますので、本庁舎の市民参加の在り方とは異なります。本庁舎の場合、このような懇談会は開催されておりません。

ファシリテーター：
　Ｃ委員より「今後のスケジュールについて、２０２１年度に実施方針（案）、要求水準書（案）の作成に際して、建て替え・リノベーションを含めて検討するとのことでしょうか。」との質問が入っています。
　事務局から説明をお願いします。

事務局：
　実施方針（案）、要求水準書（案）は、市で民間に求める施設の機能・規模感を示す必要があり、この段階では、建て替え・リノベーションに関しては結論が出ている状態であると考えています。

ファシリテーター：
　Ｄ委員お願いします。

Ｄ委員：
　まず、報告書（案）に様々な意見・情報を集約し、まとめられており、座長・事務局に敬意を表したいと思います。
　皆さんは、「今後どうなっていくのか」に興味があるため、本日このような議論となっていると思いますが、報告書の位置づけについては２３ページに規定されており、そこではサンシティのあり方について検討をするということで、この場で決めるということではないと思います。
　一方で、報告書（案）に対して私も意見させていただいたように、新たなサンシティのいずれの案に関してもクリアすべき課題があり、市は課題を解消していく責任があるので、今後の検討についてきちんとやっていただきたいという要請になると思います。
　懇談会の役割を踏まえると、機能やスケジュールを決めるというものではないと思いますので、念のためコメントさせていただきました。

ファシリテーター：
　ありがとうございます。
　Ｈ委員お願いします。

Ｈ委員：
　当初参加した際には、この地をどうするかということについて夢を語るとの思いで臨みました。立地、商圏、人口などの観点を踏まえると、中核都市としての位置づけの中で他市に責任を持つ側面もあります。例えば、保健所などは、他市に貢献出来ていると思います。
　私が最初にお伝えしたのは凱旋門とシャンゼリゼ通りの話です。何人か覚えてくださっているのではないかと思いますが、にぎわいをどのように作っていくのかは、行政に加えて、そこに住んでいる方々も同じベクトルに向いていないとうまくいかないと思います。その中で、５回の懇談会を通して、様々な意見を網羅することができ、この地における１つのビジョンというものが見えた気がしています。
　一番大切なことは、今後、どのようなプロセスを踏むかということです。このような場で一年間の積み重ねの中で、今後も市民に意見を求めてほしいと思います。

ファシリテーター：
　ありがとうございます。中核都市という表現は盛り込んではおりませんが、９７ページでは「南越谷のみならず、越谷市全体、埼玉県、ひいては更に広い視野で検討を行う」と記載しております。また、シャンゼリゼ通りと凱旋門のようなシンボルは確かに必要であり、１０１ページに「越谷の歴史や文化を踏まえたシンボリックな拠点としていく」と記載させていただいております。
　Ｉ委員お願いします。

Ｉ委員：
　報告書（案）を拝見し、２点質問があります。
　１点目は、懇談会として２年やってきており、様々な課題・可能性が膨らんでいる印象があります。今後、この内容を踏まえて今年度中に基本計画をまとめ、来年度に実施方針（案）と要求水準書（案）をまとめるというスケジュールの中で、様々な意見を絞り込む作業は容易ではないと思います。今後、市民にも説明していくとのことですが、「なぜそうしたのか」ということについて、明確な根拠が必要だと思います。このような状況の中、来年度の市はどのような体制で物事を決定していくのかを伺いたいと思います。例えば、専門家や有識者の方々が、政策課にアドバイスしていく形にするかなどの体制に関する考えを伺いたいです。
　２点目として、現在のスケジュールには基本設計の記載がありませんが、どのタイミングで基本設計を行うのか伺いたいと思います。

ファシリテーター：
　ありがとうございます。１点目の今後どう進めるかとの観点では、パブリックコメントにかけながら市民の意見を聞いていくものと理解しています。この点について後ほど事務局にお伺いします。
　２点目に関しては、先ほどＤ委員の意見にもありましたが、民間企業の創意工夫を活かすということがあり、今回の報告書（案）の１１３ページで、公募に向けた準備・手続きに関

する記載があります。設計については、公募方法によっても変わってくるという側面があります。
　それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局：
　１点目の体制についてですが、内部の話ではありますが、４月から組織体制を改めます。本事業は、現在、市長公室政策課が担当していますが、４月から課相当の「南越谷にぎわい推進室」を設けて、検討を進めていきたいと考えています。また、まだ当初予算の議決がされていないので軽々には申し上げることはできませんが、専門的なアドバイザリー契約を締結の上、事業を進めていくことを考えています。
　２点目の基本設計に関しては、２０２２年度にかけて、事業者の公募を行う中で、基本設計相当のものを求める又は詰めていくことを考えています。

ファシリテーター：
　Ｃ委員お願いします。

Ｃ委員：
　１点目は、先ほどの質問の確認ですが、２０２１年度では、既に建て替え・リノベーションのいずれかは既に決まっているとのことですが、今年度の基本計画の中で、方針が決まるとの理解でよろしいでしょうか。
　２点目は、来年度以降も、何らかの形で市民が参加できるプロセスや仕組みを継続していくことが大事だと思いますので、トライアンドエラーをしながら取り組んでいただきたいと思っています。

ファシリテーター：
　１点目に関して、まずは私から一般論を述べさせていただければと思います。建て替え・リノベーションについては、実施方針、要求水準書が決まるまでの間に決める必要がありますが、基本計画の段階でどこまで明記するかは判断が分かれるところだと考えています。
　２点目の部分は市のスタンスということになりますので事務局から説明をお願いします。

事務局：
　１点目のリノベーションについては、これまでの懇談会での議論や市民ヒアリング、マーケットサウンディングを踏まえると、リノベーションではなく建て替えの方がよいとの意見を多くいただいています。また、この施設自体が建設から４０年以上経過している中で、いわゆる大規模修繕を加えないといけないタイミングにかかっており、その場合には多額の費用が必要だという状況です。加えて、一旦リノベーションしたとしても、極端な言い方をすれば延命することとなり、やがては建て替えなければいけません。こういった状況を総合的に踏まえて、基本計画の中で、ある程度踏み込んだ形での記載をすべきであり、それが市の責務ではないかと感じています。
　２点目につきましては、どのタイミングで、どのような形で皆さまにご参加いただくかにつきまして責任を持って考え、進めてまいりたいと思っております。これをもって市民の方々の意見を聞かないということでは決してないので、ご理解いただければと思います。

ファシリテーター：
　Ｊ委員お願いします。

Ｊ委員：
　今回報告書（案）を拝見し、これまでの議論を広く盛り込んでいただいていると思います。
　一方で、経緯を知らない方が見た場合に、９４ページ以降に掲載されている写真の意図がよくわからないと思います。空きスペースに写真を掲載せず、文章のみとした方が誤解を招かなくていいのではないかと思いました。

ファシリテーター：
　ありがとうございます。
　ご指摘のとおり、初めて見た方はわかりづらい写真もあるかと思いますので、写真に説明を加える又は削除することを検討したいと思います。
　Ｋ委員お願いします。

Ｋ委員：
　建て替え・リノベーションに関して、建て替えするとの方針をはっきりしていただいた方がよいと思います。おもいきった建て替えとの判断をしていかないと前に進んでいきません。Ｈ委員もおっしゃっていたように越谷市には、５市１町の代表として恥ずかしくない立派な施設を作っていただき、埼玉の中でも素晴らしい都市と言われる様にしていただきたいと思います。

ファシリテーター：
　Ｌ委員お願いします。

Ｌ委員：
　越谷サンシティ整備懇談会の結論が、今日で出ると思いますが、今後のことを考えると、東埼玉の中心となっていける越谷の象徴となるような方向にいけたらと良いと思います。
　埼玉県全体の中で越谷の存在をアピールできる計画としていただきたいです。

ファシリテーター：
　Ｍ委員お願いします。

Ｍ委員：
　報告書やパブリックコメントなどは、内容も多く、硬いイメージで皆に伝わるようなものではないと思います。例えばツイッターやインスタグラムなどで、写真付きで共有した方が、興味を持っていただけるのではないかと思います。

ファシリテーター：
　どう言う風に伝えていくか、広めていくかというのもとても大事です。若い感性のご意見をいただきました。ありがとうございます。

意見も出尽くしたようですので、本日の意見を振り返ってみたいと思います。
まず、Ｃ委員、Ｆ委員、Ｉ委員などから、懇談会の報告書が提出された後の進め方についてご意見をいただきました。市はこの意見を受け止めて、今後の進め方について検討していただきたいと思います。
また、Ｄ委員から民間の創意工夫の活用について、Ｂ委員から防災の観点について、Ｈ委員から中核都市の位置付けの明確化について、Ａ委員から産業・文化の創造拠点とその担い手の育成についてご意見をいただきました。
そして、Ｅ委員からは「センシュアス・シティ」に関するご意見をいただきました。この件については「センシュアス・シティ」の説明を付け加える方向で修正したいと思いますが、よろしいでしょうか。

Ｅ委員：
「五感で感じるまち」という表現にしていただけると良いと思います。

ファシリテーター：
そのようなご意見があったことも含めてまとめていきたいと思います。
それでは、本日出た内容について修正を行い最終版としたいと思いますが、修正につきましては、座長一任とさせていただく形でよろしいでしょうか。

–参加者一同 異議なし–

ファシリテーター：
ありがとうございます。では、座長一任ということで、座長にお戻ししたいと思います。

座長：
皆さまから様々な意見を出していただき、大枠は見えてきているとの印象があります。いただいた意見を踏まえ文章や写真そのものも含めて、修正したいと思います。修正につきましては一任していただき、修正後、皆さまに報告させていただければと思います。
本日の懇談会では、今後のスケジュールに関して皆さんから意見をもらっています。一般的に、実施設計の前に、基本設計、基本計画、基本構想などが策定されますが、本件の基本計画は基本構想に近いものだと思っています。基本計画というのはもう少しプログラムに踏み込むことが多いです。
今後、面積等のボリュームスタディを検討しながら、市民を巻き込んで、市民にも責任を持って議論してもらう時間が必要です。また、このような事業の経験を持っている民間事業者が参入してくると、うまく市民の声を取り込んでいけると思います。完成は２０２７年度と先は長いですが、まずはスタートをきったと思います。
最後に、Ｅ委員もおっしゃっていた「五感で感じる」という言葉は、私もよく使っていますが、「センシュアス・シティ」というコンセプトが、レイクタウン同様に、定着していけばシンボルとしての言葉になり、「五感で感じる都市」というワードをサブタイトル、第２フレーズに置いた方が、市としてアピールができ良いのではないかと思いますので、最終稿は一任させていただきたいと存じます。
他に無いようでしたら、進行を司会にお返しします。

司会：
　松岡座長、ありがとうございました。

４　その他

司会：
　次に、次第「４　その他」でございます。
　まず、今年度の今後の予定でございますが、
当懇談会につきましては、本日の会議が最終回となります。
　松岡座長に報告書の最終確認をいただいた後、確定後の報告書を参考にさせていただき、市は、「越谷サンシティ整備基本計画」の策定を進めてまいります。
　まず、２月の中旬から３０日間のパブリックコメントを実施します。
　パブリックコメントの実施に当たっては、懇談会委員の皆さまにも計画書案を送付させていただきますので、ご意見等ありましたら頂戴できれば幸いに存じます。
　パブリックコメントを踏まえ、今年度中には、基本計画を策定し、来年度以降の「実施方針」等の策定につなげていきたいと考えております。

５　閉会

司会：
　それでは、本日の会議は以上となります。５回にわたる議論、誠にありがとうございました。